

令和 7 年度 園評価・関係者評価書

1. 教育・保育目標

◎自立する ◎自立したうえで社会と調和して暮らす ○どんな時でも希望を見出す力を育む

2. 本年度の重点目標

◎自分らしさを発揮し、主体的に生活するこどもを目指して

3. 自己評価結果(達成状況)【 A:達成している B:概ね達成している C:あまり達成していない D:達成していない 】

評価の観点	評価項目(取組内容)	取組(達成)の状況・改善の方策	評価
園 運 営	○職員の資質向上 ・実践的指導力の向上 ・計画性のある研修の実施 ○園務分掌の適切な機能と責任体制の整備	・「学びカフェ」の中で、すみれ理念プロジェクトチームを作り、ビジョン・ミッション・バリュー・保育観・保育理念・保育方針、保育内容を考えていき一冊の理念BOOKが出来上がりがつつある。今後そのBOOKに基づき、保育を語り合ったり、新入職員の教育また保護者説明にも利用していくことで、人が育つ組織作りを行っていきたい。 ・今年度より、職員のノンコンタクトタイムを作るようにしているが、帳票の提出期限が守れないことが多い。業務量の多さが原因と考えられるため、次年度から、コードモンを利用して指導案を作成する等、ペーパーレスかつ、業務軽減できるようにしていく。 ・今年度も計画的に研修を取り入れた。職員からの要望で新たな研修も負担にならないように考えながら取り入れていく予定。 ・職員一人ひとりとのお話を通して、園の現状や課題について把握に務め、そこで得られた意見や気づきを共有した。今後も園運営や保育の改善に活かしていく。	B
教 育 課 程	○興味や関心に基づいた直接的な体験が得られる生活の工夫 ○友達と十分にかかわって展開する生活の工夫 ○幼児の主体性を大切にした指導 ○幼児一人一人の発達の特性を踏まえた指導方法の工夫	・0歳児から子どもの主体性を大切にし、行動の前に声をかけたり、子どもが自分で取り組もうとする姿を待つ関わりを意識している。一人ひとりの思いや意欲を尊重しながら保育を行っている。今後自分たちの保育を振り返りながら職員間の対話を大切にしていきたい。 ・3歳児クラスでは、初詣の経験をきっかけに、積み木で神社を作る遊びが始まり、お参りしたりおみくじを引いたり遊びが広がっていった。遊びの中でお寺の話題も出てきたことから、幼児クラスの子どもたちを対象に、実際に住職に法衣着用してもらい、読経や子どもにも分かりやすい法話をしてもらった。子どもたちは真剣な表情で話を聞いており、貴重な学びの機会となった。今後も、子どもたちの遊びや興味を出発点としながら、実体験につながる学びを大切にしていきたい。また、家庭と園が連携して子どもたちの主体的な遊びや学びを支えていきたい。	A
子 育 て 支 援	○「親と子の育ち合いの場」としての役割や機能の充実 ・未就園児や保護者への園庭開放 ・子育て相談、講座等の開催 ○一時預かり・延長保育の実施	・子ども一人ひとりの発達や主体性を尊重する保育の考え方を、家庭でも実践できるように保護者に伝えている。また、子どもたちが好きなならべうたを紹介し、家でも親子でスキんシップを取りながら楽しんでいただけるようにしている。 ・今後保護者向けの講座や園での体験活動を通して、親子で子どもの主体性や遊びの楽しさを共有できる環境づくりにも取り組んでいきたい。 ・「すみれカフェ」を、卒園児の保護者、在園児保護者、未就園児親子と幅広い方が利用してくださっている。その中で、お互いの悩みを話したり、情報交換したりしながら楽しんでいただいている。	A
安 全 管 理 保 健 管 理	○園舎の安全安心確保 ・園舎や遊具の安全点検及び管理 ○職員の安全管理能力の向上 ・危機管理マニュアルの周知徹底 と活用 ・防犯、防災訓練の実施 ○交通安全指導の推進 ○健康観察、疾病予防、健康診断の実施	・園舎の軒下部分が雨漏りにより腐食していたため、修繕工事を行った。 ・園舎や遊具の日々の安全確認だけでなく、チェックリストを作り、毎月チェックするようになっていたが、できていない月もあった。今後必ず提出するように声を掛けたり、危機管理マニュアルの周知を図り、安全管理能力の向上を図っていく。 ・園庭入り口を施錠できる門扉に替え防犯に務めた。また、年2回だった不審者訓練を3回に増やし、うち1回は警察官からさす股の使い方の指導を受けた。 ・昨年以上に防災訓練のレベルをあげ、災害対策本部を立ち上げてからの、役割とその内容の確認をする機会を増やした。間が空くと忘れていることも多く、今後まずその役割と内容について全職員で周知できるように話し合いの時間を設けていく。	B
道 徳 ・ 人 権 教 育	○幼児の体験や経験を通した、人権意識や道徳性の芽生えの育成 ・命の大切さにふれる体験の重視 ・思いやりの心を育む環境の工夫 ・豊かな感性、様々な気づきを育む環境の工夫	・心は見えないが、表情・態度・言葉に表れる。常に保育者がモデルであることを職員に伝えてきた。 ・「園児の性について」の研修を受けた後、職員間で内容を共有し、保護者にもほげんだよりを通して、伝えた。5歳児には絵本を使って、プライベートゾーンの話をした。 ・保育者自身が“感動する心”を取り戻し、子どもの好奇心や感性を育てる保育を実践するために「センス・オブ・ワンダー」研修を行った。 ・幼児クラスで3つの縦割り班を作り、異年齢での活動(クッキング・散歩等)を行った。その中で、思いやりの心も育っていったが、日頃と環境が違うため、戸惑う姿もあった。来年度は、戸外遊び等、クラスの枠を超え、職員が子どもたちに係る体制をとっていく。	B
特 別 支 援 教 育	○一人一人の特性や発達課題に応じた支援 ○専門医療、教育機関との連携 ○途切れない支援の推進 ・家庭との連携 ・小学校との連携	・トライアングルプロジェクトを園の呼びかけで初めて実施。安心して小学校生活をスタートできる具体的な支援を共有・準備するために、園、保護者、基幹相談支援センター「やすらぎ」、ねひめキッズ(児童療育室)、児童発達支援事業所「なゆた」で話し合いの場を持った。 ・外国籍の保護者は小学校の説明内容を理解しにくいことがあるため、職員が説明会などに同行した。わかりにくい点については丁寧に捕捉説明を行い、また小学校から保護者へ伝えたい内容については園が間に入り、双方をつなぐ役割を担った。 ・2ヶ月に一度、支援の専門講師を招き、助言や指導を受けながら職員のスキル向上に努めてきた。今後は、その学びを活かし、職員同士で相談・共有し合いながら継続的に支援の質を高めていける体制づくりを進めていきたい。	A
家 庭 ・ 地 域 ・ 他 校 種 と の 連 携	○信頼される園づくり ・情報の発信、受信 ・園行事への積極的な参加の推進 ○地域の特性に根ざした園づくり ・教育資源の活用(文化・人材・施設・自然) ○小・中・高との連携 ・互いの学びの場となる計画的な交流 ○実習生の受け入れ ・人材育成の施設としての役割遂行	・クラス便りをコードモンを活用した活動記録へと移行した。導入当初は操作に慣れるまで時間がかかり、投稿に難しさを感じる職員もみられた。しかし、継続して取り組む中で徐々に慣れ、その日の子どもたちの様子や楽しかった出来事を伝えたいという意識が高まり、投稿する姿が増えてきている。また、活動記録をきっかけとして、職員・保護者・子どもの間での対話も生まれつつある。今後も活動記録の活用を継続し、子どもの姿や育ちを共有できるよう取り組んでいきたい。 ・北条東小学校の体育館をお借りし、幼児クラスの親子で民族歌舞団「花こま」の伝統芸能を楽しむ時間を設けた。今後祖父父母との時間も考えていきたい。 ・地域貢献事業として、「ティンカーベルコンサート」を自園で開催した。多くの方が来園され、高い評価をいただいた。今後は、さらに地元の方々にも来ていただけるよう工夫し、子どもたちと地域の方の双方が充実した時間を過ごせる場をつくっていききたい。 ・今年度も地域資源を活用して保育をすることができた。また、地域の方に無農薬のお米を頂くことができ、その事がきっかけで地元の有機野菜を購入し、オーガニック給食の日を設けることができた。 ・保育の仕事に興味を持っていただくために、トライやる、高校生ボランティア、インターンシップ、実習生を積極的に受け入れた。子どもたちにとっても、親や担任とは異なる「特別な遊び相手」であり、その存在が園生活をよりエネルギーで愛情深いものにしてくれたと感じる。	A

園 名	北条東すみれこども園
4. 自己評価方法の適切さについての関係者評価	
・全体的な評価への助言、自己分析の紙やかさから、先生方の誠実さが伝わります。現状に満足せず「もっと良くしよう」とする前向きな姿勢を、評議員として高く評価します。 ・3項目で「B」評価となっているが、全ての項目において課題や取組みの内容は年々レベルアップしており、その達成に向け、職員全員で取り組まれていると感じる。「B」評価は、高い理想を追求するがゆえの自己評価ととらえて いる。 ・保護者に園評価アンケートを実施し、丁寧に自己評価している。設問回答と質問に対する返答も丁寧に理解してわかってもらえるように返答している。返答も前向きになって、改善策もまとめられて適切である。給食アンケートも実施され、返答もよく考えている。アンケートの回答数が増っと上がるようにならないのか？	

5. 評価の観点ごとの関係者評価

園自己評価結果及び改善の方策の適切さについての評価

・すみれ理念BOOKの作成は、良いことと評価できる。職員の教育、保護者説明に利用することだが、内容は随時、検討見直しをしてより良いものにより上げてほしい。作成途中で「B」。 ・インクルーシブ保育の研修を行ったり、ノンコンタクトタイムを取り入れたりして、職員の事も考えられ、これは評価「A」でも。 ・職員とよく面談され、園運営や保育の改善が行われて、評価「A」でも。総合的にまだ1部未完成の所があり評価はB。 ・園開園当初から職員間のコミュニケーションを大切に意識の共有と向上を目指している姿勢を大いに評価したい。 ・「すみれ理念プロジェクト」が今後さらに良い形で進んでいることを期待する。 ・職員の負担軽減も必要とされる。「ノンコンタクトタイム」の導入より、より充実した園経営が進むことを望む。 ・「すみれ理念プロジェクトチーム」によるビジョン共有や、コードモン導入による業務効率化への挑戦を高く評価します。先生方の心のゆとりが子どもの笑顔に直結することを期待しています。
・主体性を重んじ、3歳児クラスの活動が「本物の学び」に発展している点は素晴らしいです。今後も行事と日常をシームレスにつなぎ、子どもたちの「やりたい」という意欲が家庭でも話題になるような発信を継続してください。 ・子どもの思いを大切にし、子どもを真ん中に置いた保育を教育理念として、職員間で共有されている。保護者アンケートも実施しながら、真摯に向き合う姿勢を大いに評価したい。 ・園だけでなく、アンケートの返答にもかかわらずに子どもの主体性を大切にしている所が評価でき、これが遊び、食育に生かされている。 ・家庭と園が同じ理念で遊び、学びを育てている所が、評価できる。 ・幼児一人ひとりの特性を大切に指導されている所が評価できる。評価は「A」で適切である。
・「すみれカフェ」を卒園児、在園児の保護者、未就園児親子の幅広い人が利用し、悩みとか、情報交換の場となっている所が評価できる。 ・「すみれカフェ」を通して、保護者と園、そして保護者同士の繋がりがより進んでいると感じる。 ・保護者にわらべうたをうたう良さを分かりやすく説明されていることも評価できる。評価「A」で適切である。 ・親子で子どもの主体性や遊びの楽しさを共有できる環境づくりに取り組んでください。 ・「食育」等、食についての講座は保護者の関心も高いと思うので、今後実施されれば良いのではと思う。 ・「すみれカフェ」や未就園児や保護者への庭開放などを通じ、保護者を中心として開かれた温かい居場所となっています。近年は、保護者の悩みも多様化する中、保護者がホットできるような細やかな交流が続くことを願っています。
・チェックリストがあるのにできていない月があるのは問題です。幼児を預かっているので安全が第一です。忙しいですが気を抜かず。 ・施錠できる門扉に替えたこと、不審者訓練を3回に増やしたところが評価できる。 ・防災訓練のレベルを上げたことは評価できる。早く役割とその内容が全職員で周知できるように。評価は「B」。 ・安全対策については、毎年園内の環境改善をされている、防犯等の訓練についても、回数を増やすなど対策をより強化されている。自己評価「B」は、日々の安全安心のために、常に安全管理を怠らないという強い思いの表れ、と理解する。 ・設備の修繕や危機管理マニュアルの周知など、着実な備えを心強く感じます。小さな「ヒヤリ」も全員で共有し、全職員で子どもたちの安全を守り抜いてください。
・性について研修を受け、内容を保護者にも伝え、5歳児に教えている所が評価できる。小さいころから正しく教えることは大切。 ・センス・オブ・ワンダー研修を行うことで、子どもを良く思っている所が評価できる。 ・縦割り班で上手いかなったことを来年度に生かしてください。評価は「B」 ・日々の保育の中で、子どもたちの経験や体験から芽生える意識と自発的な行動を大切にされていると感じる。自己評価「B」は、異年齢による縦割り活動に対する反省点との事。次年度の活動がどのように行われていくかに期待したい。 ・「センス・オブ・ワンダー」研修など、心の教育を多角的にとらえる姿勢に共感します。相手を思いやる優しい心が、日々の生活の中で自然に育まれることを応援しています。
・トライアングルプロジェクトや小学校や関係諸機関との細やかな連携、更に専門機関との手厚い連携は保護者の大きな安心材料です。一人ひとりの個性が加算インクルーシブな環境を今後も大切に継続してください。 ・個々の発達過程の違いや家庭環境の違い、また外国籍家庭の増加など様々な事情に対処するために専門講師を招いての助言や指導、レベルアップ講習を受け、更に職員間で共有することで、よりきめ細かな支援に繋げていこうとする姿勢を感じる。 ・トライアングルプロジェクトを初めて実施し、安心して小学校生活をスタートできる支援をするため、関係機関で話し合いの場を持ったことは評価できる。「A」。これを生かしてください。 ・外国籍の保護者に丁寧に説明の補助をしたことが評価できる。「A」 ・2ヶ月に1度、支援の専門講師を招き、職員のスキル向上に努めている所が評価できる。「A」
・活動記録の活用により、アンケートにあったように、職員・保護者・子どもの間で対話が生まれていることは評価できる。「A」 ・民族歌舞団「花こま」を迎え、もちつき等、親子で楽しむことができ、愛情が深まったことが評価できる「A」。祖父父母との時間を考えていることは良い。 ・地域貢献事業を行い、多くの方が来られたようですが、地元のお年寄りに来てもらうのに、どのようにアピールするか、区長との相談も必要か。色々チャレンジされている所が評価できる。「A」 ・開園当初には課題であった地域とのつながりは、年々着実に進んでいると感じる。 ・クラスだより等の情報発信は保護者との連携において重要な役割を担う一方で、職員の負担増にならない為に実効性のある「ノンコンタクトタイム」の運用を望む。 ・中学生・高校生のボランティアの受け入れや、地域の方との多世代交流は子どもたちの世界を広げる貴重な宝物です。地域に愛され、共に歩む園であり続けてほしいと思います。